

# 30amG-103

6年制薬学教育における薬局実務実習の成果

○高濱 佑見子<sup>1</sup>, 野中 明人<sup>1</sup>, 伊藤 はるみ<sup>1</sup>, 森下 信<sup>1</sup>, 松岡 寛<sup>1</sup>, 太田 利恵<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>大和調剤センター)

【目的】薬学6年制教育課程修了の薬剤師第1期生が実際の医療現場に立った今、薬学教育における実務実習の経験が現場でどう生かされているのか、薬局実務実習に関するアンケート調査をおこない、その成果を検討した。

【方法・対象】医療現場で活躍する6年制第1期生34名を対象にWebアンケートを実施した。「実務実習モデル・コアカリキュラム」をもとに実習項目を14個あげ、その項目毎に、役立った・役立たなかった、必要・不要、具体的に実習が仕事に役立った場面、もっと経験しておけばよかったこと等を調査した。

【結果及び考察】全体的に実習を振り返り「役立った」33名「役立たなかった」1名という結果であった。項目毎にみると「役立った」という回答は「計数・計量調剤」29名と最も多く、「役立たなかった」という回答は「学校薬剤師」23名と最も多かった。実習時間の多い項目ほど習得度が高まるため、役立っているという回答が多かったと考えられる。学校薬剤師など、実習時間も少なく、かつ現場に出ても活用機会が少ないものは、役立たなかったという回答が多かった。しかし、役立たなかったという回答が多かった場合も、必要であるとする回答が多く、習得できなくても経験としては必要であると感じている学生が多いことがわかった。「仕事に役立った場面」としては「すぐに調剤に慣れることができた」等調剤手技に関する意見が多く、「もっと経験しておけばよかったこと」としては「OTCの実習にもう少し力を入れて欲しかった」等、一般用医薬品に関する意見が多かった。以上の結果から、6年制教育における薬局実務実習は意味あるものといえる。今後、指導者の立場として、より多くの経験を培う機会を提供していきたい。これは薬局薬剤師にとって大きな使命であると考えられる。